

月刊

地域保健

12
2014

●特集

中堅期の人材育成

●フロントランナー

林 公子さん《香川県西讃保健福祉事務所 保健対策課 課長》

●ピープル

秋川リサさん《女優、ビーズ刺繍作家》



6

特集

中堅期の人材育成

- 8 中堅期の人材育成と保健師のキャリアパス
- 14 県看護協会と県の協働で人材育成を図る
～秋田県看護協会の中堅期保健師コンサルテーション事業～
- 20 指導者の同時参加で人材育成の定着化を図る
～滋賀県看護協会における保健師中堅者研修～
- 27 「保健師八策」をめざした階層別研修
～高知県における中堅期の人材育成～
- 34 官学連携で取り組む「保健師の力育成事業」
～宮崎県における中堅期保健師への現任教育～

1

フロントランナー 林 公子さん（香川県西讃保健福祉事務所 保健対策課 課長）

42

隔月連載 東日本大震災で求められている公衆衛生活動とは〈第5回〉

48

FOCUS ヤングケアラー 支援の輪を広げよう。
一般社団法人日本ケアラー連盟 ケアラー支援フォーラム 2014

52

REPORT 平成 26 年度保健師中央会議開催

70

ニュース

97

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ!

太田奈那子さん（愛知県津島保健所 健康支援課）

102

ピープル 秋川リサさん（女優、ビーズ刺繍作家）

連載

- | | | |
|----|--------------------------|------|
| 56 | 保健師のための閑話ケア《第 48 回》 | 藤本裕明 |
| 60 | 中臣さんの 環境衛生ウォッチング《第 33 回》 | 中臣昌広 |
| 65 | いまだき子育てアドバイス《第 207 回》 | 中川信子 |

林 公子 さん

● 香川県西讃保健福祉事務所 保健対策課 課長

健康を促進するのは、人とのつながり、信頼、安心感。

誰もが、その人らしく尊厳を持って暮らせる地域をつくりたい

うどん県こと香川県の西部に位置する観音寺市と三豊市は、瀬戸内の美しい海と、穏やかな気候に恵まれた豊かな地域だ。街から少し足を伸ばせば、海岸や山々でゆつたりとした時間を過ごすことができる。

その二つの市を管轄する香川県西讃保健福祉事務所、保健対策課課長の林公子さんを訪ねた。

隣の席の先輩と 久常節子さんからの指導

香川県は東讃、中讃、西讃と、大きく3つの地区に分けられる。林さんは中讃の丸亀市で生まれ育った。小学生のころは、授業中には空想を楽しみ、放課後は近所の丸亀城で遊んだり、虫をつかまえたりしていたと笑う。

「大人になっても、電車の移動中などに、ちょっとしたしぐさや外見から、その人の生活を想像するのは楽しかったですね。丸亀城では、人が通らない

近道を開拓して、探検するような気分
で友達と走り回っていました。みんな
を引っ張って行くタイプではないけれど、
好奇心は旺盛でした」

初めて出会う人、初めての場所に、「
知りたい」という気持ちを持って向
かう林さんは、保健師の仕事に惹かれ
ていった。看護師、助産師を各1年半、
3年間の臨床を経て、保健師として観
音寺保健所、現在の西讃保健福祉事務



◀琴弾八幡宮の大鳥居。毎年10月の「ちょうさ（太鼓台）祭り」ではそれぞれの地区のつながりが発揮され、迫力満点



▶観音寺近くの「本場がなくま餅 福田」では、あん餅入りの「アン雑煮うどん」が人気



▲観音寺市の名勝、琴弾（ことひき）公園の展望台から眺める周囲345mの巨大な銭形砂絵「寛永通宝」。見るだけで、健康で長生きし、お金に不自由しないといわれ、多くの人を訪れる

P8 中堅期の人材育成と保健師のキャリアパス

◎中坂育美（日本看護協会）

P14 県看護協会と県の協働で人材育成を図る

～秋田県看護協会の中堅期保健師コンサルテーション事業～

◎太田敦子（秋田県看護協会）

P20 指導者の同時参加で人材育成の定着化を図る

～滋賀県看護協会における保健師中堅者研修～

◎三上房枝（滋賀県看護協会）、黒橋真奈美（滋賀県健康医療福祉部）

P27 「保健師八策」をめざした階層別研修

～高知県における中堅期の人材育成～

◎松岡智加（高知県健康政策部）

P34 官学連携で取り組む「保健師の力育成事業」

～宮崎県における中堅期保健師への現任教育～

◎坂本三智代（宮崎県福祉保健部）

中堅期の人材育成



保健師の人材育成は、新任期については全国的に実施されているものの、中堅期や管理期が手薄な状況だ。中でも中堅期は、保健師としての成長を図る上で非常に重要な時期であるとともに、自治体職員として管理職を目指すのか、現場の「保健師」としてキャリアを積むのか、分岐点に立つ時期でもある。

今月の特集では、保健師のキャリアパスを描く中で中堅期の位置付けと育成を考察するとともに、中堅期の人材育成に力を入れている各地の事例を掲載する。

中堅期の人材育成と 保健師のキャリアパス



日本看護協会
中板育美

(なかいた・いくみ 常任理事)

中堅期の研修は未実施の自治体も多く、実施されていても、研修成果を組織で共有しにくいなどの課題もある。日本看護協会の中板育美常任理事に、中堅期の研修の現状と課題整理を含め、解決のための提言をいただいた。

現任教育の重要性と 階層別研修の現状

人材育成は、組織理念や組織目標に対する貢献度を高めるために、個々の専門能力を高めたり、あるいは組織能力（ネットワーク力）、マネジメント力を高めることを目的に行われます。その手法としては、直接的には、①職場内研修（OJT：On the Job Training）、②職場外教育（Off-JT：Off-the Job Training）、③自己啓発（SD：Self Development）が一般的であり、間接的に④ジョブローテーションまで含めた体系で説明されるのが一般的です¹⁾。

基本的に、理論や知識、制度の成り立ちと手順などの理解は、基礎教育とトピックスに行われるOff-JTで一定の達成は期待できます。しかし、理解はできても、「実行できる」に一步進めるためには、まさに、「やってみせ、

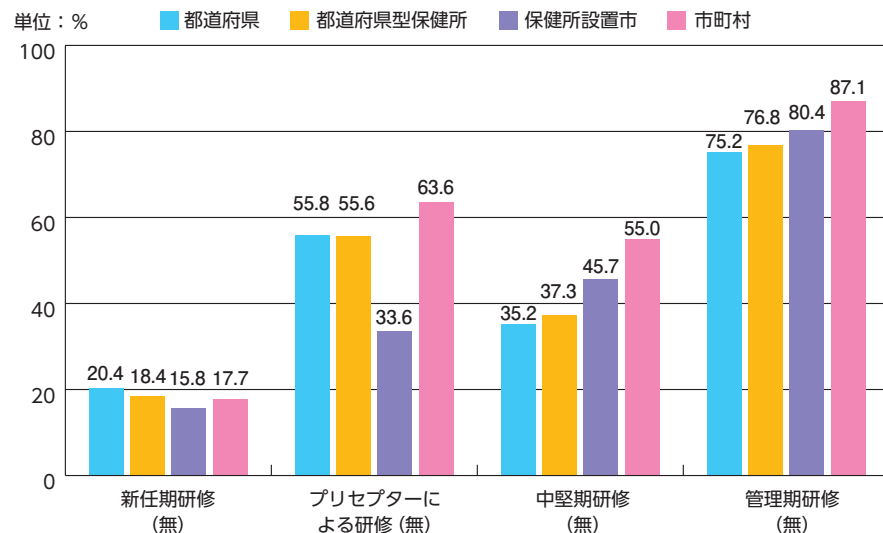
言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」（山本五十六）の教育訓のように、タイムリーな指導となり得るOJTに委ねる部分が重要であつたりします。

しかし、保健師の人材育成の重要性は、誰もが理解していても、多忙な中で優先順位を上げる余裕がなかったり、あるいは、保健師の技術伝承を盛り込んだ人材育成計画の作成が進んで、実際の成就には、予算や組織理解は不可欠であり、若干の時間は要します。

「保健師の活動基盤に関する基礎調査」²⁾を行政領域の保健師に限定して、自身が対象となる階層別研修の未受講割合でみると、新任期研修の未受講割合に比べ、中堅期や管理期の研修未受講者割合が多い傾向が分かります。特に、後輩育成と問題発見力強化あるいは未来志向性を高めるなどが必要とされる管理期の研修を受講している保

健師が少ないことが分かります（図1）。そして、中堅期・管理期ともに4割が、「研修自体がない」を未受講理由に挙げています。一方、新任期の研修未受講が20%程度にとどまっているのは、組織全体の新人研修がおおむねこの自治体でも実施されており、その延長線上に保健師等の専門職研修もセッティングされているなど、組織合意がなされている自治体が多いからと推察されま

図1 階層別研修の未受講割合



日本看護協会：平成22年度 保健師の活動基盤に関する基礎調査（行政）



一人一人に 心の通った支援を目指して

先輩の言葉と日々の経験を大切にしたい

お お た な な こ
太田奈那子さん

●愛知県津島保健所
健康支援課



文＝太田美由紀（ライター） 写真＝ C.Kent

名古屋から西に向かい、電車で30分ほど揺られると、密集したビル群が一転、のんびりとした田畑が顔をのぞかせる。三重県に近い津島市に愛知県津島保健所はある。

今回訪れたのは、愛知県に保健師として入庁して2年目の太田奈那子さん。津島保健所の健康支援課、地域保健グループに配属され、現在、地区担当として愛西市を担当している。

大学時代はラグビー部のマネジャーに力を注いだ

三重県いなべ市で生まれ育った太田さんは、現在も、いなべ市の自宅から車で40分の距離を通勤している。

「自宅があるところは本当に山の中で、農家も多く、人よりも動物に会う確率の方が高いくらいです。つい最近も、鹿の鳴き声で目が覚めましたし、近隣の農家は猿に荒らされないように」と知恵を巡らせています。担当してい

る愛西市は動物も出てきませんし、わが家の周りほどではありませんが、緑が多く、地元と雰囲気似ているんです。皆さん優しく受け入れてくださるので、とてもうれしいですね」

子どもころの遊びは、山での木登りや、田んぼでのオタマジャクシ捕り。カエルも育てた。古き良き日本の光景だ。もちろん、近くには塾もなかったが、勉強するのは嫌いではなく、自分でコツコツ勉強し、名古屋大学医学部保健学科に進学した。

保健師への道は、教師となった姉の影響と、「保健室の先生」への憧れにより、養護教諭を目指すことから始まった。いろいろな人によく話し掛けられることや、世話好きなどころも生かせるのでは考えたという。

「よく、知らないおばちゃんに声を掛けられたり、道を聞かれたりしました。電車では初対面の人と降りるまで話し続けることも多かったんです。どうし

てなんだろうかね（笑）」

太田さんの、垣根の無い人懐っこさと、やわらかい雰囲気や優しい相づちは、その場をふんわりと和ませる。

大学時代は、ラグビー部のマネジャーに力を入れた。名古屋大学は東海地方の国公立大ではかなりの強豪だ。

「部員の足首の捻挫が多く、テーピング代もかさみましたし、捻挫やけがを繰り返して長期間の離脱につながれば、メンタルケアも必要でした。そこで、過去のけがのデータをまとめて、



▲健康支援課長、丹羽恵子さんと一緒に

介護を一人で背負わないで、自分の人生も大切に
利用できるサービスは利用し、周囲にも甘えて



女優、ビーズ刺繍作家

秋川リサさん

聞き手 編集部



女優でビーズ刺繍作家の秋川リサさんは、認知症となった母を在宅介護した経験から、世間体を気にせず状況をオープンにして、近所の人にも頼ることの大切さを痛感したという。そうした「頑張り過ぎない」姿を周囲に見せることで、介護を一人で抱え込まない人が増えてくれたらと願っている。「親を施設に入れることイコール捨てた」というイメージを変えていただきたい」と語る秋川さんに、介護を経験して分かったことや、これからの自身の生き方などについて伺った。

世間体ばかり気にしても
前には進めない

— お母様が認知症になる前は、介護についてどのようにお考えでしたか？

秋川 正直、他人事だと思っていたんです。

13年前にビーズ刺繍の教室を開いて、そのころからずっと来てくださっている方もたくさんいます。長く続けている方が辞める場合は、ほとんどが「介護」が理由です。

私の年代は専業主婦の割合が圧倒的に高くて、専業主婦が何を気にしているかというと、「世間体」「近所の目」ですよね。「気分転換にいらっしゃいよ」「デイサービスに預けている間にお出掛けすればいいのに」と言うのと、「それはちよつと……。おばあちゃんをデイサービスに預けて、何だか楽しそうにお出掛けしてるって言われるから」。

介護に苦勞していた親しい友人に会ったときに「母の介護で大変なの。あなたのお母さんは元気でいいわね」

PROFILE

●あきかわ・リさ●

1952年東京生まれ。1968年資生堂のサマーキャンペーンでCMデビュー、帝人専属モデル、雑誌『anan』等のトップモデルとして活躍。以降、モデルタレントの先駆けとして、テレビドラマ、バラエティー番組、映画に出演。2001年にビーズアート教室を開設し、全国各地でビーズ刺繍の普及にも努める。著書には、『娘・麻里也とともにアトビーと闘って』（ティ・アイ・エス）、『秋川リサのビーズワーク』（日本ヴォーグ社）、『母の日記』（NOVA出版）等がある。

と言われても、そのときはピンときませんでした。でも、介護を経験した今だったら、「たまには電話でもしてね。私ができることがあったらするから」「デイサービスの迎えに行つてあげようか？」って声を掛けます。

介護の大変さは、実際に経験してみないと分からないと思います。